

活動している人へ〔活動を高め、支える〕〔活動をつなぎ^{ひろ}拡げる〕

⑤交流・連携

Q25 企業や学校などと連携したいが？

A25

相手のメリットを 考えて説明



企業や学校などとも連携した方がより効果的な活動ができて、地域のためにもなる場合があります。

協力をお願いするときは、相手方にとっても、良い取り組みであることを説明するとよいでしょう。自分たちのことだけを考えるのではなく、相手にどんなメリットがあるのかを先に考え、そのことを提案することが大切です。メリットとは、例えばどんな経済的な利益、その企業等の広報、新たな人脈の紹介などです。

また、前提として普段からの付き合いが重要です。普段からの信頼関係がないと、そのときだけお願いしても無理かもしれません。

なお、年度の最初に1年のスケジュールをきっちり組み立ててしまうことも多いので、イベントなど協力をお願いするなら、そのことを理解して早く計画をまとめるようにしましょう。

活動団体からの一言アドバイス

地域の名産として、筍をPRする活動に取り組んでいたときには、地元の中小企業に、試しに「筍ようかん」や「筍ケーキ」をつくって販売してみないかとお願いし、ご協力を得ました。

例えば地域に縁のない大企業にこのような話を持っていっても、なかなか前に進めることはできません。地元の中小企業だからこそ「おもしろい、ちょっと作ってみようか」といっていただけるのです。

もちろん、地元の企業ならどこでもいいかという、そんなことはなく、やはり地域に貢献したいという意欲をお持ちの企業をお願いすることが大事です。

地元の中小企業は強い味方

校長先生に、学校を通じて広報誌を配布させて欲しいとお願いに行きました。はじめは代表者が交渉に行きましたが、これまでの活動への理解がなく、いい返事はいただけませんでした。

次にメンバーにその学校のPTA役員をしている人がいたので、その人がお願いに行き、配布が決定になりました。やはり先生にしても、誰か分からない人よりも、よく知っている方から話していただいた方が良いでしょう。

学校へはPTAを通じて連携